

だいよんぶ
第四部 第二話 あかおまつ あいのかぜ
赤尾祭りと北風

むかしむかし きたがた むら げんざい ひがし ほう おお むら 福良 三軒屋 下河瀬
昔々、北潟の村は現在よりも東の方が大きな村で、
なかかわせ ちかかわせ 中河瀬 近河瀬、などの村があり、今の松ヶ崎よりも下の方に、延びておりました。
「ころ」
その頃、ちようど京都で戦争がおこり、いのち からがら逃げてきた、二百四人の 侍 たちが
きたがた す 北潟に住むようになりました。

しかし、あまりにも突然のことだったので、きたがた おさ 北潟を治めている

さむらい 侍 も、その人たちをやしなっていくための

かね お金がなくなって、くる 苦しくなってしまいました。

そのため 村 人たちへの取り立てもきびしくなりました。



すると、身分の低い者たちは、自分たちの生活が苦しくなるものだから、「みんなで取り立ての量を少なくしてもらえらるるように、反対しに行くか。」「でもそんなことをしても、殺されてしまっただけだぞ！」などと言ってさわぎ出しました。

殺されてしまったのはたまたま、村の者たちは、まず作物の取り立てを済ませました。そして、他の村人たちに気付かれないように、夜になるとその地区の人たちだけで木を切り、大きなかだを何十個も作りました。

そして、青森の白山神社で、お願いして、北から吹いてくる冷たい風（北風）が吹くのを待っていました。

一日、また一日、風が吹かない日が続きました。そして、とうとう五日目の夜に北風が吹いてきたのです。それで人々は、夜のうちに遠い赤尾のうらへ移ったということです。その日がちようど月をもとにして作ったこよみの九月八日であったそうです。

それで、今でも、赤尾の氏神様のお祭りは、今の太陽をもとにしたこよみの九月八日に行な

ています。

あおのもり はくさんじんじや
青 森 の 白 山 神 社 の あ と の、 大 き な し い の 木 は、 戦 争 が 終 わ る ま で、 そ の 木 の 姿 を も ち こ た
え て、 東 西 南 北 の 四 つ の 方 向 に 百 メ ー ト ル ぐ ら い も 枝 が よ く し げ っ て、 し い の 木 一 本 で、
一 山 の な が め が あ り 加 賀 の た ち ば な 峠 か ら で も、 そ の み ご と な 大 き な 木 の か わ っ た 風 景 が 見 る こ と が
で き た そ う で す。 そ う い う 理 由 で、 赤 尾 祭 り の 九 月 八 日 に は 必 ず 北 風 が 吹 く の で、 北 蕩 の 者
た ち は、 赤 尾 祭 り や。 北 風 が 吹 く わ い や。」 と い う の だ そ う で す。